

氏名	国語	志願番号
----	----	------

解答は、すべて解答用紙に記入すること。

問題 I

次の文章を読んで後の問い合わせに答えなさい。

一部のスーパーマーケットではゴミの減量と経費節減をうたつて、客が買い物袋を持参することを奨励している。そのような店には、入り口付近やレジのカウンターに「レジ袋不要カード」が置いてあることがある。

初めてそのカードを見たとき、私は聴覚障害者のためのサービスかと思った。だが考えてみれば、袋を必要としないことを口でなく動作で告げることは、さほど難しいことではない。持参した買い物袋を見せてよい。つまり、「レジ袋不要カード」は、聴覚障害者へのサービスではなく、視覚障害者を除くすべての来店客に向けてのものだったのだ。

これは一見、「袋は要りません」と客がいちいち言わなくて済むようにという、店側の配慮のように見える。(A)しかし、実際はそうではない。客の面倒を①省くためではなく——ただひとこと「袋は要りません」と言うのが面倒であるかどうかも議論の余地があるが——、レジ係の仕事上の効率を最優先するための措置だったのだ。品物の計算が終わって客に合計金額を告げると同時に、係員の手はレジ袋にのびている。客がそれに気づいて、「あつ、袋はいいです」と言ったときには、袋はもう買いたい物力<sup>カゴ</sup>のなかに入っている。レジ係は袋をカゴから取り出す。しかし、繖の寄つてしまつた袋は次の客には使えないという考えが頭をよぎり、②「コンワク」が顔に出る。客のひとつことが、彼もしくは彼女の手際よい仕事運びのタイミングを狂わせてしまったのだ。

客が黙つて「レジ袋不要カード」をカゴに投げ込んでさえおけば、(B)作業は迅速に滞りなく完了し、レジ係は迷惑がらずにする。客には余計なことを言わずに黙つていってほしいのである。

沈黙が当たり前になると、口をきくことがおっくうになり、(C)口頭によるコミュニケーションの感覚が麻痺してくる。沈黙に慣れた人々は、電車のなかで他人の足を踏んだり背中を押したりしても何も言わなくなる。歩道を走る自転車は、ベルをちりりんちりりんと鳴らして道を空けさせ、(D)路傍に身を寄せる歩行者のわきをすり抜ける際に、「すみません」でもなければ「どうも」でもない。ア [ ] を合わせることすらしない。相手と目を見交わして声を出し、相手の声を耳で聞くという肉体をとおしたやりとりがないから、ベルの音を聞いて端に寄る歩行者をイ [ ] の通つた人間であると実感することができないのだろう。自分の行く手を④阻んでいた邪魔な物体という意識だから、その物体に対して⑤アヤマつたりお礼を言つたりする」となど考え方もある。

声を出すことが要求されない、または、はばかられる環境に身を置くうちに、声を出すことを極端に避けるようになったのだ。生身の人間に触れられたりあやされたり抱き締められたりしなかつた乳幼児に、笑わない、視線を合わせない、物理的な刺激に反応しないケースがみられると聞くが、(E)それと同じ類だろう。インターラクション（相互作用）のない環境が、無言、無表情、無反応の人間を大量に生み出した。人々の(E)口頭コミュニケーション能力を低下させたものの一つが、無言の客を歓迎する効率優先主義といえよう。

( 野口恵子 「かなり気がかりな日本語」 集英社新書 二〇〇四年 )

【一】傍線部①～⑤の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して書きなさい。(各二点)

【二】二重傍線部(A)「しかし、実際はそうではない」とあるが、「レジ袋不要カード」は何のために置いてあるのか、本文中の言葉を使って答えなさい。(三点)

【三】二重傍線部(B)「作業は迅速に滞りなく」とほぼ同じ内容の表現を本文中から十字以内で抜き出しなさい。(三点)

【四】二重傍線部(C)「口頭によるコミュニケーション」が具体的に表現されている部分を本文中から抜き出して答えなさい。(五点)

【五】本文中の空欄 ア イ にそれぞれ入る漢字一字の語を答えなさい。（各二点）

【六】二重傍線部（D）「それと同じ類」とあるが、何が「それと同じ類」なのか、「こと」に続く形で本文中から二十字以内で抜き出して答えなさい。（五点）

【七】二重傍線部（E）「口頭コミュニケーション能力を低下させた」とあるが①それは人々にどのような影響をもたらしていふると筆者は述べているのか、本文中の言葉を使って答えなさい。また、②そのことに対してもあなたはどのように思うか、自分の考えを述べなさい。（各五点）

## 問題Ⅱ

次の文章を読んで後の問い合わせに答えなさい。

私が子供の時、なにより恐ろしかった言葉はなんだろうか？この文章を書き始める時から、それを確かめよう、とねがつていました。私は読んだ本で面白く感じたり、大切に考えたりする言葉の一節をそのまま紙に書き写して覚える習慣でしたから、いくつも①コウホは浮かんでいたのです。

しかし、子供の日々のあれこれの場面をずっとと思い出してゆくうち、私にとつていしばん恐ろしかった文節は、印刷されたものを目で見たのじゃなく、耳で聞いたものだつた、と気がついたのでした。それは、母親が言つた、どういう時にいわれたものであるかも覚えていて――取り返しがつかない！　というものなのです。

父が突然亡くなつた日のことでした。親戚や近所の人たちや、思いがけないことに新聞で名前を見たことのある人や、多くの人たちがお②クやみに来てくださいました。その間、（A）日本の田舎のお母さんならそのはず、と誰もが思うだろうように、母は――私は子供ですから、大人にそう感じるのもおかしいのですが――可愛らしい態度で静かに泣いていました。

夜も遅くなつて、父の遺体が置かれている裏座敷に行つてみると、母がひとりで坐つてているのです。そして、怒つているような強い声で――取り返しがつかない！　と何度もいつていてました。

私はじつと廊下に立つてましたが、そのうち（B）恐くなつて、自分の蒲団に戻つていつたものです。自分が大人になつてからも、取り返しがつかない、という言葉に出会うたびに、真夜中の、どこか不思議な母のいい方を思い出します。

この二、三日、書庫を探したのですが、本のタイトルも、およそのページも覚えているのに、見つけることができないので、正確な引用ができないのですが、木下順二さんに、――取り返しのつかないことを、取り返す、という意味の一節があります。あなた方も『夕鶴』というすばらしい作品で知つていられる劇作家です。

若い時、それを読んで、私は（C）もう一度、胸がドキンとしました。あの遠い夜、森のなかの谷間の家で、まだ若いといつてもいい年齢だった母が、取り返しがつかないこととして、父の死を悲しみ嘆いていただけじやなく、取り返したいと思いつつそれができないので怒つていていたのを、私は暗く寒い廊下で感じとつていたのだと気がついたのでした。

私がいま、この問題について自分の言葉が役にたつかどうかを疑いながら、ともかく考えることを書いてみようとしているのは、「子供の自殺」についてです。

私は子供の心の病気について専門的な知識を持つていません。子供を自殺に追いつめてしまう、家庭、学校、社会のゆがみについて調査し、研究してきたのでもあります。なにより、教育の現場で、苦しんでいる子供と一緒に考え、かれらに具体的な③ハゲましをあたえてきた経験もありません。

大人の自殺には、その人のことを自分がよく知っている場合とくに、あのような人がもう生きていることはできない、と考えてのことであれば、仕方がない、と思うことがあります。深い悲しみと、重い残念さは消えないのですが……。

そして、まだ生きているうちに、かれが私にこれから自殺するが理解してくれ、といったとしたら、全力をつくしてそれとめようとしたはず、とも思うのですが……。

大人の自殺と子供の自殺のちがうところは、子供の自殺は、生き残る者たちに決して理解できない、ということです。なぜかといえば、子供にとつて、――取り返しがつかない！　ということは絶対にないからです。

私はこう信じています。そういうながら、ムリに信じようとしている、あなたたちに向けて信じたふりをしているのではありません。自然に、私はそのように信じています。それは、私がこれまで永く生きてきて、勉強できることは勉強し、仕事を続けることでも学び、経験と優れた友人たちとに教えられて自分のものにした知恵によるのです。

信じられないほど苦しく辛い状態で生きている子供の前に――世界にそういう子供たちは数多くいます。たとえばアフリカでエイズにかかる貧しい子供たちのことを思つてください――私が連れてゆかれたとして、その子供が、――もう取り返しがつかない！　といつたとします。

私はすっかり（D）取りみだしてしまふかもしませんが、小さくカスれた声であれ、――そういうことはない！　といふ

たいと思うのです。

しかし実際には、子供にとっても大人と同じように、もう取り返しがつかない、と思うことはあるはずです。私自身、自分の子供の時の、あれこれの出来事を思い出すのです。しかし、私はそのすべての機会に、子供ながら、その取り返しがつかない、という思いを自分で引っこり返して、生き延びてきたことは正しかった、と心から考えています。

子供にとって、もう取り返しがつかない、ということはない。いつも、なんとか取り返すことができる、というのは、人間の世界の「原則」なのです。この原則を、子供自身が④ソンチヨウしなければなりません。それは子供の誇りの問題です。

私はこれまで幾度か、子供の持っている誇り、ということを書きました。そしてそのたびに、そういうアマイことをいつていていいのか、という反論がとどきました。そうしてみると、それへの私の再反論の⑤ゴンキヨは、私が子供だったころの思い出と、障害を持った子供ひとり、健常な子供ふたりを育てた経験があることに過ぎません。確かに、私の意見は弱いのです。そのことを認めたうえで、私はやはり子供にはしっかりと誇りの感情がある、といい続けるつもりです。若い時には持つていたはずの誇りをなくして、しかもそれでいいんだ、という大人ならいくらくらも見てきました。しかし、(E) 同じように開きなおつてている子供には会つたことがありません。

それでは、子供が取り返しのつかないことをすることはないかといえば、現実にあるのです。人間にとつて、それが自分の目で見るなにより苦しく辛いことだ、と私は思います。子供が取り返しのつかないことをする、とはどういうことか?

殺人と、自殺です。ほかの人間を殺すまで暴力をふるい、自分を殺すまで暴力をふるうことです。

そして、この二つの恐ろしいことは、ひとつなのです。「暴力」と「人間のいのち」ということを結んでよく考えれば、あなたたちも、殺人と自殺の二つが、ひとつのことだ、と思いあたられるのじやないでしょうか? このような暴力を子供たちにふるわせない、子供自身もそれをふるわない、と決意することが人間の「原則」だ、と私は信じます。

確かに、原爆、水爆をはじめとする核兵器は、いま生きている人間たちが、これまでの歴史のなかでも最大の「暴力の機械」として、作ってしまったものです。それを減らし、ゆくゆくはなくしてゆこう、という運動は世界じゅうにあります、まだ成功していません。

あなたたちも考えなければなりません。私は皆さん、この場合にも、(F)「原則」ということから考えていつてくださるよう希望します。それも、まず自分の、そして身近な人たちの問題として、子供がほかの人間を殺す暴力をふるい、自分を殺す暴力をふるうこととは、あつてはならない、それが「原則」だ、ということから考えていただきたいのです。(G) 大人が、なしとげようとしていて、まだなしとげられないことがあります。それに対して、子供たちが人間らしい誇りを持って、自分は「原則」を守り、そこから考えを進めてゆくかどうかに、世界の明日が明るいかどうかはかかるています。

( 大江健三郎 「『自分の木』の下で」 朝日新聞社 二〇〇一年 )

【一】傍線部①～⑤のカタカナを漢字に直して書きなさい。(各二点)

【二】二重傍線部(A)で、筆者はどのような場面のどのような様子を述べているか。本文の語句を用いて答えなさい。(四点)

【三】二重傍線部(B)で、子供の頃の筆者はなぜこのように感じたのか。本文の語句を用いて答えなさい。(四点)

【四】二重傍線部(C)で、筆者がこのように感じた理由として、もっとも適切なものを次のなかから選びなさい。(三点)

ア 子供の時になにより恐ろしかった言葉が、目で見たものではなく、耳で聞いたものだと気がついたから。

イ 真夜中に父の遺体に向かつて、母がまるで鬼のように怒りを露わにしている姿が恐怖と共によみがえったから。

ウ しばらく忘れていた「取り返しがつかない」という言葉に突然出会い、あの夜の恐怖がよみがえったから。

エ 『夕鶴』で有名な木下順二が、まさかあの夜の自分の恐怖感について文章に書いているとは思わなかつたから。

オ 「取り返しがつかないことを、取り返す」という言葉に出会い、あの夜の恐怖が吹っ切れた気がしたから。

【五】二重傍線部(D)で、作者はなぜこのような状態になるのか。本文の語句を用いて答えなさい。(四点)

【六】二重傍線部(E)で、作者は具体的にどのような子供のことを述べているのか答えなさい。(各五点)

【八】二重傍線部(G)について、作者が本文中で述べている「原則」を二つ答えなさい。(各十点)

【七】	【六】	【五】	【四】	【三】	【二】	【一】
10点	5点	4点	3点	4点	4点	10点

問題 II

問題 I

解答用紙

氏名	国語	二〇一九年度 郡山女子大学 家政学部一般生Ⅰ期入学者選抜 志願番号
		得点

八

A large grid of empty squares, likely a game board or a placeholder for content. The grid consists of approximately 20 columns and 20 rows of squares.

20点

氏名	二〇一九年度 郡山女子大学 家政学部一般生Ⅰ期入学者選抜 国語
	志願番号

## 解 答 用 紙

二〇一九年年度 郡山女子大学 家政学部一般生Ⅰ期入学者選抜

氏名	
国	
語	
志願番号	

得点	
----	--

## 問題 I

【二】	は ぶ	①	レジ係の仕事上の効率を最優先にして仕事をやりやすくするため。
【三】	困 惑	②	
【三】	ろぼう	③	
【二】	はば	④	
【二】	謝	⑤	
【五】	ア 目 血		相手と目を見交わして声を出し、相手の声を耳で聞くという肉体をとおしたやりとり。
【六】	つ 声 を 出 す こ と を 極 端 に 避 け る よ う に な		
【七】	た を 出 す こ と を 極 端 に 避 け る よ う に な		
【四】	相手と目を見交わして声を出し、相手の声を耳で聞くという肉体をとおしたやりとり。		
【三】	手 際 よ い 仕 事 運 び		
【三】	手 際 よ い 仕 事 運 び		
【二】	は ぶ 困 惑 ろぼう はば 謝		

① 口をきくことがおつくになり、他の人のことを生身の人間であると認識する気持ちが希薄になつて、無言、無表情、無反応の人間が多く生み出されることになつてしまつた。

② (例)現代社会は、効率を優先するあまり、自分の気持ちを丁寧に他人に伝えるということを面倒である人が増えていると考える。しかし、言葉を通したやり取りは人間関係の基本であるし、素直に自分の気持ちを伝えたり、人の話に耳を傾けることは人として生きていくうえで非常に大切であるから、自分から口頭によるコミュニケーションを大切にして、より良い人間関係を築いていきたい。

## 問題 II

【七】	候補	①	母が、父が亡くなつた通夜や葬儀の場で可愛らしい態度で静かに泣いていた様子。
【六】	悔	②	通夜の席では可愛らしい態度で静かに泣いていた母が、夜遅くに父の遺体を前にして、父の死を悲しみ嘆いていただけじやなく、取り返しがつかないと何度も言つて怒つてている様子を見たから。
【五】	励	③	母が、父が亡くなつた通夜や葬儀の場で可愛らしい態度で静かに泣いていた様子。
【四】	尊重	④	母が、父が亡くなつた通夜や葬儀の場で可愛らしい態度で静かに泣いていた様子。
【三】	根拠	⑤	母が、父が亡くなつた通夜や葬儀の場で可愛らしい態度で静かに泣いていた様子。
【三】	ウ		
【二】	候補		
【二】	悔		
【二】	励		
【二】	尊重		
【二】	根拠		

10点 5点 4点 3点 4点 4点 10点

子供がほかの人間を殺す暴力をふるい、自分を殺す暴力をふるうことは、あつてはならない。  
子供にとって、もう取り返しがつかない、ということはない。いつも、なんとか取り返すことができる。